

生活空間資源を活かしたまちなか観光戦略「うちめぐり」の考え方と枠組み

- 足助における観光と生活の融合をめざしたまちなか社会実験 その1 -

まちなか	生活空間	観光	正会員	○永瀬 節治	*1	同	窪田 亜矢	*2
歴史的町並み	社会実験		同	前川 綾音	*3	同	矢吹 剣一	*3
			同	李 峰浩	*3	同	王 新衡	*4

1. はじめに

中馬街道(塩の道)沿いの宿駅・在郷町として栄えた足助のまち(現豊田市)は、大正期の香嵐溪の整備を基点に創造的な地域づくりを展開するとともに、70年代後半からは町並みの保存を実践し、現在は重伝建地区の選定へ向け準備が進められている。

東京大学都市デザイン研究室では、豊田市から委託を受け、2008年は観光、2009年は生活の場としてのあり方をテーマに、足助のまちづくりに実践的に関わってきた。2010年は生活と観光が融合したまちなかの姿を探るため、来訪者にまちなかの生活空間に触れてもらう社会実験「うちめぐり」を企画・実施した。これは重伝建地区の選定後を見据えたまちなか観光戦略として試行したものである。本稿ではその考え方と枠組みについて論じる。

2. 社会実験に対する考え方

2-1. 季節依存型観光からの脱却

足助の観光は、香嵐溪の紅葉シーズンに訪れる観光客が年間の4割強を占める²⁾。また町並みエリアでは、2月の「中馬のおひなさま」、8月の「たんころりん」などのイベントが多くの人出をもたらし、町並みの魅力発信に貢献しているが、季節依存型の観光形態となっている。また町並みの入口付近が香嵐溪への入口となっており、観光客はまちなかへと流れて行き難いという課題がある。

こうした現状を踏まえ2008年11月に行なった観光社会実験からは、香嵐溪でのマップ配布が観光客の町並みへの誘導に一定の効果を上げることが明らかになった³⁾。

2010年は、まちなかでの体験をより楽しんでもらうための場を用意するとともに、地元の人々と来訪者との交流を促すことで、まちなか観光の質を高め、さらに来訪者を受け入れる意識を育むことを意図した。

2-3. 地域資源としてのまちなかの生活空間

今後は伝建制度のもとで町並みの修理修景が進み、まちなかへの観光客の増加が見込まれる一方で、地元住民はこれまでも生活感のある町並みを大切にしてきた。生活の中で使い込まれてきた町家には、軒先の設えや、内部の土間や座敷、中庭や通り抜けなど、豊かな空間がある。これらの空間は「おひなさま」等の展示イベントでも活用されてきたが、生活空間自体の魅力を伝えること

で、季節イベントや観光型商業のみに依存しない、質の高いまちなか観光の実現が可能なのではないかと考える。

これらの公開・活用については、上記のイベント等で一定の実績があり、普段から通りに面する空間を開放し、関心を示す来訪者との自然な交流が生まれる場面も見られる。一方で、防犯やプライバシー阻害への抵抗感を抱く住民も少なくない。こうした問題に配慮し、地元住民の理解を得ながら進めてゆくことが重要と言える。

以上の点を踏まえ、今回の社会実験では、1)生活空間に触れる観光スタイルを、来訪者(観光客)に楽しんでもらえるか、2)生活空間に観光客を受け入れることが、地元の方々にとってどの程度可能なのか、の二点を検証することとした。

3. まちなか社会実験「あすけうちめぐり」の枠組み

3-1. 社会実験までの経過

今回の実験は地元との協力が不可欠であり、豊田市まちづくり推進協議会まちづくり部会と連携しながら、企画の検討を進めた。8月からの計4回の部会において、当研究室の企画案について検討を行い、観光客の誘導方法や協力者の募り方、生活空間の公開方法、実施時期や連携主体のあり方などを議論し、内容を詰めていった。

実施日時については、2008年と同じく紅葉シーズンに香嵐溪を訪れる観光客の誘導を試みることにしたが、地元の実情に配慮し、ピークの一週間程度前となる11月13日(土)、14日(日)の10時~16時とした。

3-2. 「うちめぐり」のプログラム

まちづくり部会での議論を経て準備された社会実験は、足助のまちの内部、さらに建物の内側をめぐるという意味を込めて、「あすけうちめぐり」と名づけた。具体的には、以下のプログラムを設定した。

(1) 町屋の生活空間(一歩うち)の公開

本実験の柱となるのが、軒下や土間、座敷、中庭等を公開するお店やお宅であり、これらを「一歩うちめぐり」のスポットと位置づけた。事前に回覧板等で協力者を募るとともに、部会のメンバーとともに声がけも行ない、計25箇所を設定することができた。

(2) 路地・裏道や社寺など(一本うち)への誘導

町並みが連なる中馬街道を軸としつつ、その周囲へ回

遊性を広げるため、路地や川沿いの道、裏道や社寺などをめぐる「一本うちめぐり」スポットと位置づけた。具体的にはマップへの記載とサインによる誘導を試みた。

(3) ルートと拠点の設定

25箇所「一本うちめぐり」スポットに対し、香嵐溪側の町並みの入口付近からそれらをめぐるルートを設定した。さらに中間地点にある田口邸を「まちづくりミュージアム」、終点の小出邸を「塩の道ミュージアム」と名づけ、当研究室でパネル展示と映像上映等を企画し、うちめぐりの拠点と位置づけた。両者はともに質の高い空間を有するが、特に香嵐溪側から見て町並みの最奥部に位置する小出邸をルートの終点とすることで、普段は人通りの少ないエリアに来訪者を導くことが意図された。また地元有志の企画により、道筋のアイストップにあたる空き店舗（旧えびすや）で着物展も企画された。



図1. 田口邸(まちづくりミュージアム)の様子

(4) マップの作成と配布

参加者の手引となる、「あすけうちめぐり」の基本的な情報が掲載されたマップを作成した。「一本うちめぐり」「一本うちめぐり」のルートとスポットが示されるとともに、お店やお宅を公開いただく協力者には、簡単な紹介文（商品の宣伝を除く）を作成してもらい、建物の写真、公開空間の種類を示すアイコンを付した一覧を掲載した。当日は宣伝のため香嵐溪でも配布することとした。



図2. 「うちめぐりマップ」の表紙(左)と地図(右)

(5) サイン設置による誘導

「一本うちめぐり」スポットには、マップに対応した番号と公開空間を記したサインを掲げ、さらに「一本うちめぐり」スポットを含むまちなかの回遊を促すため、通りの要所や路地の入口等に誘導サインを設置した。

3-3. 参加者の理解を促すための方策

参加者に生活空間の見学への理解を促し、地元協力者

にも一定の安心感を与えるため、以下の方策を導入した。

(1) 受付の設置とパスポートの導入

香嵐溪に近い町並みへの入口付近に位置する足助交流館前に「うちめぐり案内所」を設置し、その他まちなかの田口邸、塩座、小出邸の4箇所参加者の受付を行なうこととした。ここで参加者はパスポート（うちめぐりパス）を受け取り、普段は公開されていない町家内部の見学に際しては、パスポートの提示を義務づけた。

(2) ルールの提示

受付では、生活空間を見学する上で守るべき基本的なルールについて、ボードを示しながら口頭で説明するとともに、マップにもルールを掲載した。

3-4. 実施体制

今回の社会実験は、足助まちづくり推進協議会が主催、まちづくり部会と当研究室が主管する形をとり、さらに足助自治区、商工会をはじめとする商業関連団体、足助公社、観光協会、豊田市足助支所にも協力を仰いだ。

告知は観光協会のホームページ、市の広報誌に加え、地元新聞社にも記事を掲載してもらった。当日は当研究室と部会のメンバーに加え、足助中学校の生徒の協力も得て、受付の運営やマップ配布、人手が足りないお店やお宅での支援にあたった。さらに観光ボランティアの協力を得て、1日2回の「うちめぐりツアー」も企画した。

4. 今後を見据えた効果の検証

以上の社会実験の効果を検証するため、まず参加者（来訪者）に対しては、受付でアンケートを渡し、当日回収するとともに、受付・回収の時間と場所をパスポート番号と対応させることで、滞在状況も把握した。またお店やお宅の一部を公開していただいた地元協力者にもアンケートを配布し、良かった点や問題点等の回答を得た。これらの結果について、続く二篇で述べる。

注)

- 1) 窪田亜矢, 六田康裕, 西川亮: まちづくりの経緯をふまえた町並み/景観/観光の今後: 足助における「まちなか観光」1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp.213-214, 2009
- 2) 豊田市商業観光課編: とよたおいでんプラン 豊田市観光交流基本計画, 豊田市, p.98, 2007
- 3) 六田康裕, 西川亮, 窪田亜矢: 社会実験による町並みへの観光客誘導可能性の検証: 足助における「まちなか観光」2, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp.215-216, 2009
- 4) 西川亮, 窪田亜矢, 六田康裕: 社会実験による町並み観光の可能性の分析: 足助における「まちなか観光」3, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp.217-218, 2009

*1 東京大学先端科学技術研究センター 助教・工博

*2 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授・工博

*3 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程

*4 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程

Assist. Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr.Eng.
Assoc.Prof., Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo, Dr.Eng.
Master's course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo
Doctoral course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo